

ミライシードは日々アップデート中！ POWER UPDATE情報はこちらでチェック！

8月から本格始動 オクリンクプラス

「オクリンク」と「ムーブノート」の特長や機能を統合し、共同編集など新しい機能を搭載したアプリ。それが「オクリンクプラス」です。個別学習・協働学習・振り返りをより充実させ、子どもたちの主体的な学びを促進します。

「オクリンクプラス」を徹底紹介するページをご用意しています！

新機能登場 ドリルパーク

子ども一人ひとりが習熟度に合わせた問題に取り組むことができるデジタルドリル。先生方からのご意見をもとに、アップデートを重ねています。ぜひ活用ください。

ドリルパークの使い方はこちらをチェック！

こちらからアクセス！



- 共同編集を使った操作手順も詳しく解説！
- 8月から使える「集計機能」についても動画で詳しく解説！
- 授業での生かし方がわかる実践事例も多数公開！

こちらからアクセス！



- 役立つ「配信機能」の操作手順も詳しく解説！
- 「暗記計算マスター」の活用法を紹介！
- 多様な実践事例も公開中！

「オクリンクプラス」・「ドリルパーク」などミライシードのことを知りたいときは…

ミライシード ファンサイト

使い方の困った！迷った！を解決できるポータルサイト

全国の学校での活用事例を一発検索！

オンライン研修の申し込みもこちらから！

ミライシードファンサイトはこちら！



ミライシード公式LINE

役立つ情報を逃さない！タイムリーに必要な情報をお届け！

LINEお友だち登録はこちら！



先生方のお声をお寄せください！

ミライシード活用事例BOOKアンケート
こちらから3分で完了！



2024年度秋版 ミライシード活用事例BOOK

2024年9月1日発行
発行所：(株)ベネッセコーポレーション
小中学校事業本部

冊子作成にあたり、ご協力いただいた先生方に心から御礼申し上げます。
© (株)ベネッセコーポレーション

2024年度秋版

Benesse

ミライシード活用事例BOOK



対話を増やし
主体性を伸ばす
授業を実現！



秋からもっと、
子どもが伸びる！

POWER UPDATE 授業術

難単元が増える2学期でも
単元理解の
取りこぼしをつくらない！

今回の事例と一緒に作りました！



現場の先生方とよりよい授業を一緒に作り上げる取り組みです！

ミライシード DXエディター



子ども主体で学び合える授業の実現へ。 ミライシード 2024 POWER UPDATE

2024年度ミライシードは大規模なアップデートを実行しています。

「オクリンク」、「ムーブノート」を統合した授業支援アプリ「オクリンクプラス」のリリース、そして「ドリルパーク」の機能追加。さらに、デジタルテストの新しいCBTアプリの開発も進行しています。

子どもたちがもっと主体的に力を伸ばせるように、今回お届けした『活用事例BOOK』ではアップデートされたミライシードを2学期からの授業に生かす活用法・事例をご紹介します。

ご参照いただき、子どもたちが伸びる授業の「実現」にぜひお役立てください。

オクリンクプラス

子ども同士の学び合いと対話を増やす様々な仕掛けを！



ドリルパーク

基礎から高校入試対応まで。必要な学習を一人ひとりに合わせて。



iCT テストパーク

テスト業務軽減とテストの即復習で子どもの学力向上をめざせる



※テストパークは一部モニター校でご利用いただいております。※2025年度中に順次拡張予定。

課題やニーズに合わせた教材も必要に応じて



まるぐらんど for School

一人ひとりの多様な特性に合わせることで「学び」を支え、未来を切り開く力を伸ばします。



Speaking Quest

小学5・6年生対象の英語パフォーマンステスト。日々の授業で英語を聞く・伝える経験を！

2024年、先生方をご支援する取り組みに力を入れています。

2024年度新たな制度もスタートし、先生方へのご支援もUPDATE! ミライシードをもっと日々の授業に生かしていただけるようにサポートしてまいります!

事例も多数掲載!

簡単操作動画も!

先生のためのミライシード活用支援サイト
全国の先生の実践事例やセミナー情報、アップデート情報等をまとめています

オンライン研修会もこちらから!

アコムコミュニティ開催情報

夏休み後の授業提案力
ベネッセチームICT
ICT支援員募集

使い方の「困った!」「迷った!」を解決できるポータルサイト

ミライシードファンサイト

ミライシードの授業実践事例を200事例以上掲載! また基本操作のわかりやすい解説動画も掲載しています。困ったことがあったらまずご確認ください。

先進的な取り組みを共有するミライシード最大イベント!

ミライシード SUMMIT ミライシード AWARD



〈ミライシードSUMMIT〉は、年に一度開催されるユーザーカンファレンス。〈ミライシードAWARD〉受賞者が登壇し、どのように教育をアップデートしていったのか実践事例をご紹介します。



今回の活用事例BOOKは第1期「ミライシードDXエドゥケーター」の先生方に事例作成にご協力いただきました!



先生方とともに教育DXにもっと挑戦していく!

ミライシード DXエドゥケーター

お申し込みはこちら!



我々ベネッセと「ミライの教育」を創造して下さる先生を「ミライシードDXエドゥケーター」と定め、一緒に活動しています。先生方のお声をもっと取り入れ各校の実践や取り組みを全国に広げるための仕組みです。

ミライシード活用事例BOOK 2024年度秋版 INDEX

秋からの協働学習をPOWER UPDATE! 「オクリンクプラス」活用法 — 2ページ

秋からの基礎学力定着をPOWER UPDATE! 「ドリルパーク」活用法 — 14ページ

デジタル確認テスト「テストパーク」 — 20ページ

秋からの協働学習をPOWER UPDATE!

オクリンクプラス 活用法

2学期こそ協働学習をどんどん進めたい！
もっといろいろな子どもにスポットライトを当てたい！
子どもの主体性を伸ばす、そんな2学期の授業を実現するために。
8月から本格的に使えるようになった「オクリンクプラス」の授業実践例をご紹介します！

1 活用法
共同編集機能で
子ども同士の学び合いを広げる！



1枚のカードを同時に編集することが可能に。クラスメートと協力しながら考えをアウトプットしたり、班で成果物を同時につくり上げたりすることがスムーズに。

2 活用法
3つの集計機能で
学びを可視化し議論を深める！



手軽に考えを可視化できる集計機能もリリース。意見分析だけでなく、キーワード集計も子どもたち自身で実行できます。提出されたものの傾向や意見を集計・グラフ化することができます。

3 活用法
個人の思考と集団の
学びが行き来しやすく！



「みんなのボード」と「マイボード」をタップ一つで切り替え。また「みんなのボード」には簡単にタブを追加できるから、子ども自身で必要なボードをつくることも可能です。

「オクリンク」や「ムーブノート」のよいところを統合して進化 / POWER UPDATEしたオクリンクプラス 主な機能紹介

もっと授業で使いやすく！ もっと子どもたちの主体性を伸ばせるように！
「オクリンク」や「ムーブノート」を使ってこられた先生方の声を生かして「オクリンクプラス」は開発されました。
3つのアプリの大まかな機能を比較しましたのでご確認ください。

	オクリンク	ムーブノート	オクリンクプラス	オススメポイント	オクリンクプラスを活用して実践しています！
カード共同編集	×	×	◎	共同編集ができるようになったことで意見交換や学び合いがより活発になります！	 英語表現の学び合いに活用しました。 北海道千歳市立勇舞中学校 柳澤 知優先生
個人⇒集団の切り替え	×	○	◎	ボードで個人・集団の切り替えが手軽にできるので、他者参照での学び合いが進みます！	 自分の考えを広げ深めることができます！ 石川県加賀市立庄小学校 野田 美由紀先生
子ども同士のコメントやイネ！のやりとり	×	○	◎	リアクションボタンを使った手軽なやり取りが、話し合いの活性化に最適です。	 スタンプを使って友だちとの交流も進みます。 大阪府守口市立錦小学校 橋本 舞先生
サイズや縦横比の変更	×	○	◎	カードのサイズも変えられ、自由な表現で考えを広められます！	 まとめや振り返りもわかりやすく表現できます。 富山県射水市立片口小学校 福田 慎一郎先生
フィードバック機能	○	×	◎	一括でスタンプを押せてフィードバック。余った時間でより丁寧な個別の見取りを実現！	 複数回のフィードバックもスムーズに進みます。 茨城県茨城町立光明中学校 福住 里絵先生
集計機能	×	○	◎	自分でデータをつくり、レポートをまとめるまで、オクリンクプラスひとつで完結！	 集計を使ってクラスの意見を可視化できます。 北海道旭川市立新富小学校 長田 夢先生



他者参照でPOWER UPDATE!

他者参照しながら物語を読み解き 主体的な授業参加を後押し

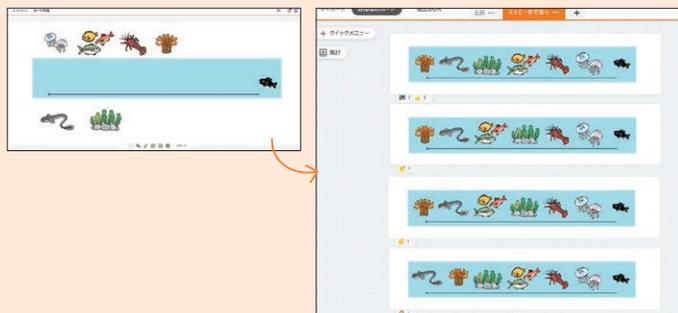
『スイミー』の単元で、比喩表現に着目し登場人物の心情を読み解く力、本文の叙述を根拠にして理由を考える力を身につけるために活用しました。「オクリンクプラス」上の共同編集機能を使えば、児童全員が参加して、主体性を促すことができるのではと考えました。

授業のポイント 子どもの操作を簡単にすること、「みんなのボード」上で友だちの意見を参照できる状態にしておくことが、授業への全員参加を実現するポイントです。

1 まず比喩に着目させるために誤った比喩表現が書かれたダウト文を読ませる。教員が、黒板上で掲示するものと同じダウト文をみんなのボード上に配付する。児童は、配付されたダウト文の中で比喩に着目しながら、それぞれの場面の様子やスイミーの気持ちの変化を整理する。



2 教員は、海に見立てた青色の図形を背景に置いたカードに、スイミーが出会った生き物のイラストを置いてみんなのボード上に配付する。なお、児童たちが場面をイメージしやすいよう、カードは横長に作成する。児童は、配付されたカード上で、出会った順にイラストを並び替える。友だちのカードをみてスタンプやコメントをしている児童を見取り、全体に共有する。



3 教員は生き物のイラストと回答を記入する枠組みを用意したカードを作成し、みんなのボード上に配付する。児童は、出会った生き物の中でスイミーにとって一番大事だった生き物を理由とともに考える。該当のイラストを動かすことで回答し、理由は自分の言葉で入力する。回答したカードは提出BOXに提出し、クラス全体で共有する。



教員からの指示がなくても、叙述から読み取った生き物の大きさをイラストの大きさを変えることで表現してみたりと、主体的に授業に参加する児童の姿が印象的でした。

オクリンクプラスよくある Q&A

Q. 「オクリンクプラス」の共同編集の機能をオフにできますか？

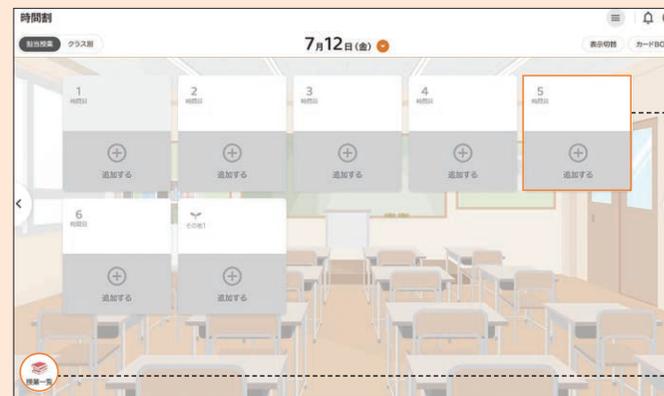
A. できます。先生画面の授業設定から「みんなのボード・カードの編集」を『不可能』にすると、子ども画面では読み取り専用モードとなり、共同編集を制御することができます。

4 *掲載しているQ&Aは2024年8月時点のものです。



授業実践いただくうえで押さえておきたい 「基本操作」

授業の作成 ▶▶ 時間割を選んで授業を作成しましょう



「オクリンクプラス」を起動すると、時間割の画面になります。「時間割」の枠をタップ、または「授業一覧」>「授業作成」をタップして、授業を新規作成します。時間割のどこに配置するか考えながら、授業を作るときは「時間割」の枠から新規作成がオススメ。単元で一つの授業枠を使うときには、「授業一覧」>「授業作成」から新規作成がオススメです。

マイボード・みんなのボード・提出BOXの使い分け

「マイボード」は、個人で思考する場所で、プライベートなボードです。

- 他の人からは見えません。
- 個人あてに送ったカードや返却したカードは、マイボードに届きます。

「みんなのボード」は、みんなで思考しながら協働学習する場所で、授業参加者全員で共有するボードです。

- クイックメニューから、子ども端末の制御ができます。●上部[+]から、最大50までボードを追加できます。



「提出BOX」は、他の子どもの提出物をみんなで見ることで学びを深めたり、先生によるコメントや評価を入力したりできます。「提出BOX」も、他の子どもの提出物を見えないようにしたり、提出者情報の公開/非公開を切り替えることも設定可能です。

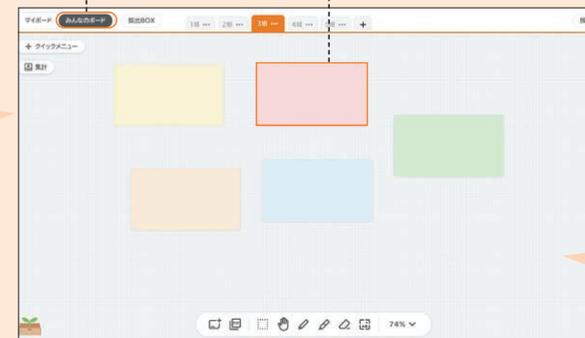
共同編集 ▶▶ グループワークを効率的に!

「みんなのボード」は授業内容に合わせて操作制限できます!

操作制限は、授業作成時に「授業設定」で設定されたものになっています。変更は「授業設定」または「クイックメニュー」で変更できます。

- 名前の表示の有無
- 画面操作可否
- カードの送り合い可否
- カードのリアクションの可否
- 「みんなのボード」のカードの共同編集の可否
- カードの閲覧・カードの並び替えの可否
- 集計機能の利用可否

「みんなのボード」にあるカードは全員で編集可能です。他の人が編集しているときは編集中のユーザー名が表示されます。



先生が「みんなのボード」の利用を制限できます。

「みんなのボード」の利用自体を制限したり、「みんなのボード」上での編集やリアクションなどを制限するなど、授業に合わせて柔軟に設定できます。



「オクリンクプラス」から
直接読み取る！
すぐ真似できる
共有コードはこちら



共同編集でPOWER UPDATE!

共同編集を使った子ども同士の真似し合い・ 教え合いで多彩な英語表現を身につける

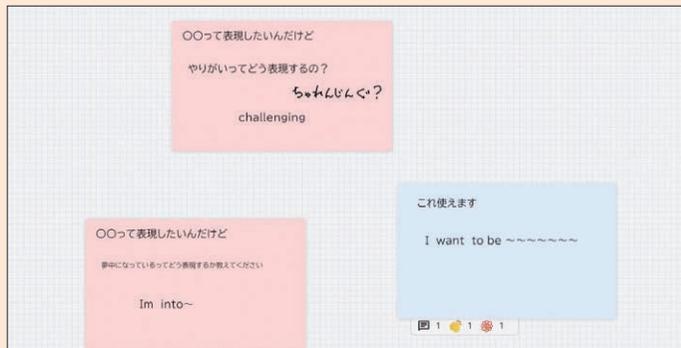
英語のスピーチ原稿を作成する実践です。子ども同士の表現の教え合いに「オクリンクプラス」を活用します。英語が苦手な子どもは知らなかった英語表現を身につけることができますし、得意な子どもは友だちからの質問の答えを考えることで英語力を引き上げることもできます。

授業のポイント 質問は「赤いカード」、みんなに使ってほしい表現は「青いカード」に書くと定義し、思いついたことはどんどんカードに書いていくことを推奨する。

1 英語のスピーチ原稿を作成するために、スピーチ内容を個人で考える。スピーチ内容を考えるのは「オクリンクプラス」のマイボードで行ってもよいし、ノートやプリントで行ってもよい。スピーチ内容を英語にすることで「オクリンクプラス」を活用。表現が思いつかない場合はカードの色を赤にして質問を書き「みんなのボード」に送る。他の人にも役立ちそうな表現を思いついたらカードを青にして「みんなのボード」に送る、とルールを決める。



2 「みんなのボード」にある「赤いカード」に書いてある質問に答えられそうなものがあったらカードに書き込む。「青いカード」に書かれた表現を見て、よいものがあったらリアクションボタンを押したり、コメントを書き込む。



3 「みんなのボード」に集まった「赤いカード」「青いカード」を見ながら、自分の英語のスピーチを仕上げていく。



全員がカードを見られて書き込めるので、他の人の書き込みを見て思いついた別の表現が追加されるなど、子ども同士のやり取りの中で表現の幅を広げていきます。

オクリンクプラスよくある Q&A

Q. どの子どもがカードの編集に携わったのか確認できますか？

A. カード編集中は共同編集している子どもの名前が表示されるため確認できます。共同編集後はカードに表示されている名前をタップすることでカードの作成者や更新者名を確認できます。



「マイブラン学習」に
ついて詳しくはこちら



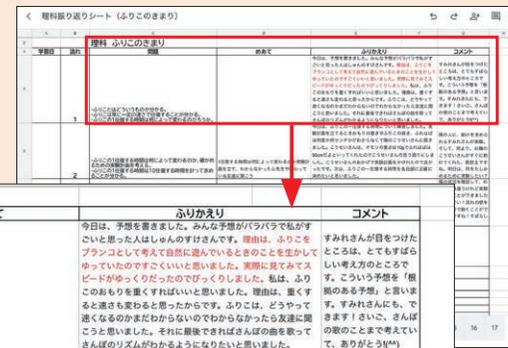
他者参照でPOWER UPDATE!

友だちの考えと比較し、 自分の考えを再構築する

児童が自分で学習計画を立て、自分のペースで学習を進める「自由進度学習」の実践です。庄小学校では自由進度学習を「マイブラン学習」と呼び年に2回実施。オクリンクプラスを使った「マイブラン学習」の実践を考えました。

授業のポイント あらかじめ学習内容、ワークシート、ヒント、解説動画などが載っているカードをたっぷり準備する。

1 まず最初に子どもたち自身で学習計画を立案します。学習計画の立案は紙やスプレッドシートを使って行います。



理科	ふりこのきまり	めあて	ふりかえり	コメント
			今日は、予想を書きました。みんな予想がバラバラで私がすごいと思った人はしゅんのすけさんです。理由は、ふりこをブランコとして考えたら自然と進んでいることを生かしてゆっていたらすすむとよいと思いました。実験を見てみてスピードがゆっくりにったのでびっくりしました。私は、ふりこのおもりを重くすればいいと思います。理由は、重くすると動きが変わると思ったからです。ふりこは、どうやって速くなるかまだわからないのでわからなかったら友達に聞くとうと思いました。それに前後でみんなの意見を聞いてみるのでみんながどうなるかよくなるようにしたいと思います。	すみれさんが目をつけたところは、とてもおもしろい発見がありました。ふりこのおもりの重さによってスピードが変わるという発見は、とてもおもしろい発見です。

2 実際の学習は「オクリンクプラス」を活用。「みんなのボード」にヒントカードや学習カードを置き、子どもたちは必要な学習カードを選択し、「マイボード」にもって行って学習に取り組みます。低学年の場合は、最初から必要な学習カードを「マイボード」に送っておいてもよいでしょう。



3 「チェック問題」もカードに用意。一定のタイミングでチェック問題に取り組みませます。解答は「提出BOX」に送ってもらい、教員は「OK」「もう一度」「素晴らしい」などリアクションしつつ、学習状況を把握します。つまづいている子どもがいたら「他の子の回答を見たらヒントがあるよ」と他者参照を促す声かけを行います。



「マイブラン学習」の授業中、子ども中心に学びが進むので、教員は学習状況の把握と支援に集中できます。

オクリンクプラスよくある Q&A

Q. カードに挿入できる拡張子は何ですか？

A. 以下の拡張子をご利用いただけます。
●画像 .jpg .jpeg .png .bmp .gif ※.gifは画像としての取り込みのみ
●動画 .mp4 .mkv .mov .webm ●音声 .mp3 .mka .m4a .weba
●その他ファイル .xls .xlsx .doc .docx .ppt .pptx .pdf .key .numbers .pages .sb3 .odt .ods .odp .txt .csv .itsv



フィードバック機能でPOWER UPDATE!

俳句の磨き上げが進む「提出BOX」でのアドバイス

京都・奈良への修学旅行をテーマに一日一句、合計三句をつくり句会を実施しました。国語科だけの活動ではなく英語科とコラボ、そして学年全体で取り組みました。生徒の作品を「提出BOX」を介して複数回フィードバックすることで磨き上げが短時間でスムーズに進むだけでなく、教員からの返却が生徒側でも把握できるため能動的に再提出する生徒がぐんと増えました。

授業のポイント 俳句を共有するカードのフレームを作成しておく。

1 学年全体(4クラス)で一つの授業を作成し、俳句を書くカードをレイアウトし生徒に配付します。提出期限を生徒にアナウンスし、指定された時間までの提出を促します。生徒は俳句が完成したらまずは「提出BOX」に提出。締め切り後、教員は「季語は一つ」「どう感じたかを入れてみよう」などのアドバイスを書き入れ生徒個々に返却します。



2 返却されると子どもたちの「オクリンクプラス」画面に目印が表示されるため、各自確認を行います。アドバイスに沿って修正や加筆を行い再度提出。俳句としての体裁が整ったら英語の授業内で英訳を進め、国語と同じように「提出BOX」に提出し、英語科の先生のアドバイスをもらいます。



3 クラス単位で句会を行います。作成したカードを「みんなのボード」で共有。グループごとでまずは作品を紹介し合い、コメントや感想をもらいます。次に学年全体で共有。「いいな」と思った作品にスタンプやコメントを書き入れ相互評価を行いました。

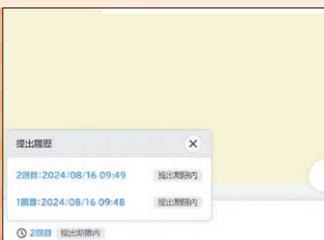


提出の履歴が細かく残り、表示されるため、生徒自身がやり取りの積み上げや変化を確認できます。

オクリンクプラスよくある Q&A

Q. 提出BOXに出したカードは提出のたびに上書きされていきますか？

A. 提出BOXを開くと最後に送ったカードのみが表示されますが、複数回提出している場合は、提出履歴から以前の提出物を確認できます。提出BOXのカードから三点リーダー(⋮)をタップし、「提出カード履歴」を選択すると「提出履歴」が表示され、提出日時をタップするとその時間に提出されたカードが表示されます。



「オクリンクプラス」から直接読み取る！
すぐ真似できる
共有コードはこちら



授業実践いただくうえで押さえておきたい 「基本操作」

「提出BOX」でのフィードバック

子どもに公開されるフィードバック

スタンプ



子どもにライトなフィードバックを返したいときに

コメント



子どもに言葉でしっかりフィードバックを返したいときに

ペン



よかった点、ミスの指摘など自由に書き込みたいときに

評価 (5段階)

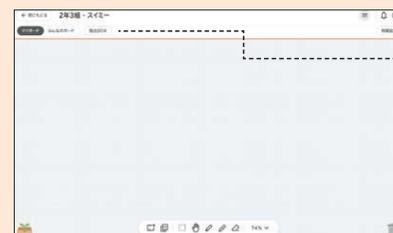


評価を記録しておくときに ※子どもには公開されません。

一人ひとりに合わせて丁寧にフィードバック!

まとめてできるところはフィードバックを効率化!

個別に評価



「提出BOX」をタップ

一括で評価



「一括選択」をタップ



提出物をタップ



提出物を選択

返却する

評価やスタンプなどを入力

- スタンプ
- コメント
- ペン
- 評価 (5段階)

返却する

すべてを選択する
表示中のすべての提出物を選択します。

全選択解除
選択状態をすべて解除します。

フィードバックの入力について詳しくはこちらから





共働編集でPOWER UPDATE!

グループで協働しながら食料産地についての探究課題を洗い出す！

食料生産について考える授業の導入の場面で活用しました。身近な題材をテーマに、比較して考え、課題を明確にし、単元計画を立てるという活動の中で、グループでの協働的な学びの要素を加えることで、授業の質を高めたいと考えました。

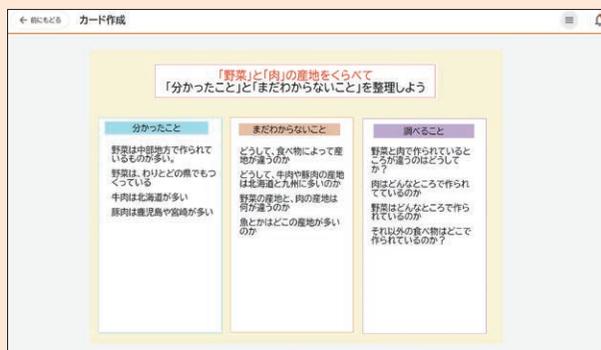
授業のポイント 班のボードに地図帳や使用するカードを予め配付しておく、児童は自分たちで学習を進めていくことができます。

ピン集計機能で
まとめてもOK!

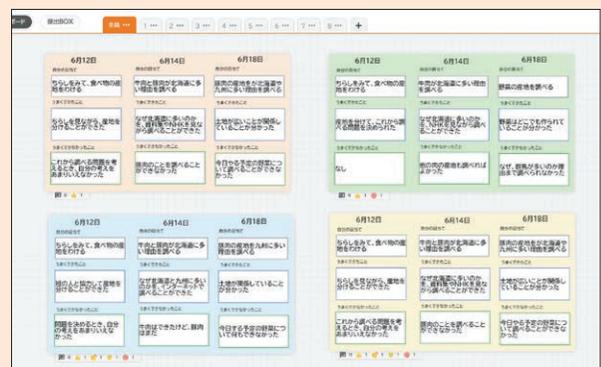
1 教員が、2枚の日本地図(左は野菜用、右は肉用)を「みんなのボード」の班ごとのボードに配付したうえで、児童に、スーパーのチラシを見て野菜と肉の産地分けをするように指示する。児童は班のボード上で、チラシの品目と産地を見ながら、野菜と肉のピンを地図上に共同で配置していく。一人ずつ「マイボード」で行い、一人ずつまとめたカードを、班のボードに送りピン集計でまとめてもOK。



2 教員は、児童が「分かったこと」「まだわからないこと」「調べること」という3つを整理できるカードを各班のボードに配付。児童は、自分のカードを複製し、野菜と肉の産地カードを比較しながら、カードに自分の考えを書く。行き詰まっていたら、友だちの意見を参照するように促す。教員は、カードに書いたことをグループで発表させる。その後、「わからないこと」を発表し合い、「何を調べたいと思ったか」黒板に板書しながら共有する。



3 授業の終わりに、教員が振り返りカードを配付。今日の学び方で、うまくできたこと、うまくできなかったことについて振り返り、カードに書き「みんなのボード」上に提出する。教員は、振り返りを書き終えた児童に対して、「真似したい学び方」や「自分にはなかった視点」を振り返っている人にコメントをしたり、スタンプを押したりするよう促す。



学習計画を立てる場面では、グループ内で共同編集機能を使いながら、どの順番で取り組めば問題を解決できるのかについて意見が活発に飛び交っていました。

オクリンクプラスよくある Q&A

Q. ピン集計のピンの画像を変更できますか？

A. 「ピン」の追加は可能です。なお子どものピンの種類の追加・削除の制御も授業の設定で可能です。



授業実践いただくうえで押さえておきたい [基本操作]

キーワード集計



問題文に含まれる単語など集計に含めたくない文章がカード上にある場合、「読み取り専用テキスト」をご利用いただくと、集計から除外されます。

「みんなのボード」上のカード中にあるテキストを集計し、ワードクラウドで可視化します。どんな意見や回答が多いかを単語で確認しつつ、その単語を含むカードの作成者を確認できます。

- 集計の仕方
- 1 「みんなのボード」で「集計」をタップ
 - 2 「キーワード集計」をタップ



選択肢集計



「みんなのボード」上のカード中にある選択肢を集計し、グラフで可視化します。回答の分布をグラフで確認しつつ、その回答をした子どもを確認できます。

- 選択肢の作り方
- 1 カードを新規作成し、作成したカードをタップ
 - 2 カードメニューから「選択肢」をタップ



ピン集計



「みんなのボード」上の集計用画像にあるピンを集約します。ピンの分布状況を図上で確認しつつ、そのピンを配置した子どもを確認できます。

- 集計元のカードの作り方
- 1 カードを新規作成し、カードに画像を配置
 - 2 画像をタップし、アイテムメニューから「集計用画像」をタップ。これで画像が集計用になります。





操作に慣れるためにまずは手軽な使い方を

はじめての「オクリンクプラス」

オススメ事例

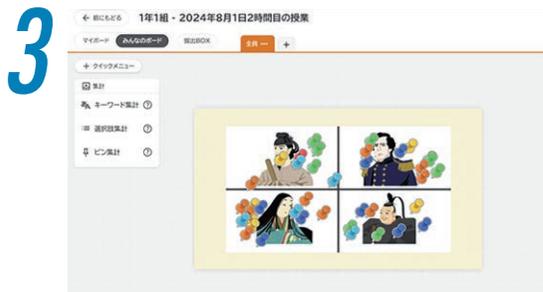
ゲーム感覚で楽しめる！ ピン集計でクラスの キャラクターを決定！

クラス全体の考えや意見がパッと一瞬で表示できるため子どもたちも盛り上がります。学級活動だけでなく、国語の教科書の素材文を画像としてカードに貼り「おどろいたところ」や「不思議に思ったところ」などにピンを押しクラス全体で集計のうえ感想共有など、いろいろな場面で活用できそうです。

1 学期のクラス目標や、イベントの目標をクラスで決めます。グループに分かれ、生成AIを用いて目標に合ったかわいいオリジナルのキャラクターを生成します。



生成されたキャラクターを集めて一枚の画像にし、アイテムメニューからカードに画像挿入し、「集計用画像」を押します。



カードを「みんなのボード」に送付します。各自一番いいと思うものにピンを押し、「保存する」をタップします。全員が押し終わったら左側にある「集計」をタップ。全員のピンが集約表示されます。選んだ理由などについてクラス全体で話し、キャラクターを一つ決定します。



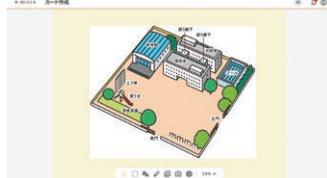
子どもたち自身で集計のもとになるカードを作ったり集計表示を出したりできるので、自由な発想で全員参加の活動ができそうです。

北海道旭川市立新富小学校 長田 夢先生

校内マップを貼るだけ！ 「秋見つけた！」集計

校内探検の結果を校内マップにまとめていく活用法です。「オクリンクプラス」では、子ども自身で集計することができるので、子どもたちが操作方法を覚えるのにもおすすめの実践です。マップにピンを押して集計する実践は社会などの授業にも活用できそうです。

1



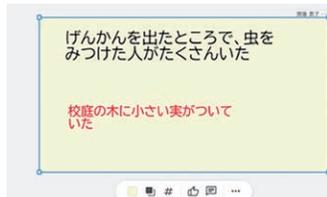
教員は「みんなのボード」上でカードを立ち上げ、下のツールバーから「ファイル」を選択し、集計に使用する校内マップを選びカードに貼り付ける。画像上部、または下部に表示される「集計用画像」をタップする。

2



植物に関することは赤のピン、虫などに関することは緑のピンなどと、ピンを押すルールを教員から伝える。「他にはどんなピンがあったらよさそう？」と子どもたちに問いかけることも…。子どもたちは校内を回り、自分が見つけた秋をピンで示していく。教室に戻り、画面左にある「集計」を押す。子どもでも集計が可能であるため、児童が活用してもよい。

3



ピンの偏りや散らばりなどを班で話し合い、気づきを班ごとに申し合う。その際、「みんなのボード」のボードを班ごとに割り当て、一つのカードを使って対話しながら書き出していくことで、自分では気づかなかった点を共有することができる。最後に班での気づきを発表し、振り返りを行う。



校内を探検し、気づいたことをまとめていく実践です。校内マップを貼るだけなので、準備もすぐにできます！

京都府宇治市公立小学校 西田 凌己先生

特別付録

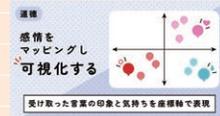
即使える！コピペですぐ実践できる

「オクリンクプラス」共有コード集

「オクリンク」や「ムーブノート」で人気だった授業を「オクリンクプラス」で実践したい…そんな声にお応えしてご用意しました。

感情をマッピングし可視化

受け取った言葉の印象と気持ちを座標軸で表現する実践。集計で考えが可視化されることで交流が活発になり、言葉で表しにくい感情も座標軸を使うことで表現しやすくなります。



▶実践の詳細と共有コードはこちらから

心メータで意見の可視化

テーマについての意見を交流する場面で、はっきりとした二択の意見ではなく、「～だと思っけれど、必ずしもそうとは言えない」といった子どもたちの心の揺れや葛藤を、メータを用いて表現できる実践です。



▶実践の詳細と共有コードはこちらから

共有も蓄積も簡単！ 読書の記録

読書句間、読書の記録保存が簡単、蓄積・共有ができるというよさを生かして、読書の記録に活用できます！



▶実践の詳細と共有コードはこちらから

カードを繋いで英語で道案内

道案内の定番のフレーズのカードを組み合わせて、目的地までの道案内をするという実践です。学校から身近な場所への道案内をミッションとすることで子どもたちの主体性も引き出せます！



▶実践の詳細と共有コードはこちらから

共有コードの使い方

オクリンクプラスからは二次元コードの読み取りでカードの取り込みができるようになります！



1 【☰】をタップし、【共有コードTOP】をタップ

2 【共有コードを入力する】をタップ



3 連携された共有コードを入力（または二次元コードを読み込み）、【読み込む】をタップ



詳しい手順はこちらから！
また共有コードの作り方もこちらからご確認いただけます！

秋からの基礎学力定着を

POWER UPDATE!

ドリルパーク

活用法

秋からの基礎学力引き上げに役立つ実践事例をご紹介します！「ドリルパーク」の機能を生かした手軽にできる実践が中心です。ぜひお試しください。

1 活用法

難単元・難漢字が増える2学期。
できるまで「**学び直し**」で繰り返す
がオススメ

「ドリルパーク」は、子ども一人ひとりが習熟度に合わせた問題に取り組むことができるデジタルドリル。「できなかったところを、できるようになるまで、繰り返し解く」を実現できます。



この事例を実践!



単元テストで解けなかった問題をとことん復習させ、解けなかった理由を考えさせます。

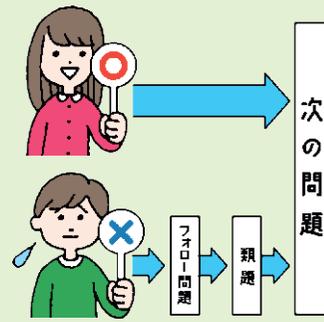
京都府
宇治市公立小学校
西田 凌己先生

▶ P.16で詳しく解説!

2 活用法

1学期のつまずきが足を引っばらないように
AI個別対応で理解度引き上げ
がオススメ

AI対応のドリルは解答時間や正誤に合わせて出題内容が変化。1学期の理解度に合わせたやり直しがAI対応ドリルなら手軽にできます。



この事例を実践!



つまずきが見られた児童には、前の学年にまでさかのぼって取り組ませています。

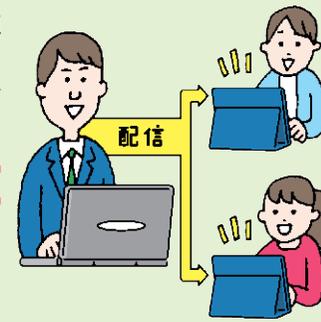
東京都
板橋区立北野小学校
山岸 祐二先生

▶ P.17で詳しく解説!

3 活用法

学習習慣が乱れがちな2学期だから
定期的な課題配信での学習習慣ペースづくり
がオススメ

ねらいに合わせた問題を簡単に課題配信することが可能。定期的な取り組みにすることで、正しい学習習慣づくりや乱れた学習習慣の立て直しに役立ちます。



この事例を実践!



配信した課題の取組結果を細かく見取り、学習態度や学習サイクルについても声かけを行います。

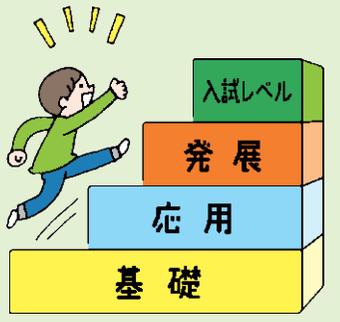
奈良県
五條市立五條中学校
森本 真人先生

▶ P.18で詳しく解説!

4 活用法

忙しくて学習への意欲が落ちやすい2学期だから
基礎から実践問題まで様々な問題への取り組みを促す
がオススメ

「ドリルパーク」は英単語の暗記や計算問題、さらには入試問題にも対応。生徒のレベルや取り組みたい内容に合わせた様々な出題が可能です。



この事例を実践!



「わかった!」という達成感を体験してもらうために様々なシーンで、様々な問題を出題しています。

京都府
福知山市立日新中学校
小野 朋美先生

▶ P.19で詳しく解説!



単元テストと連動した繰り返し演習でPOWER UPDATE!

徹底的な解き直しとできなかった原因の言語化で理解を引き上げる

どの学年においても、理解できていない部分をそのままにせず、早めになくすことは重要です。単元テスト後の振り返りに「ドリルパーク」を用いて、ノートに自分の言葉で間違えた理由を書き原因を考えるとしっかりとした基礎力を積み上げることができます。

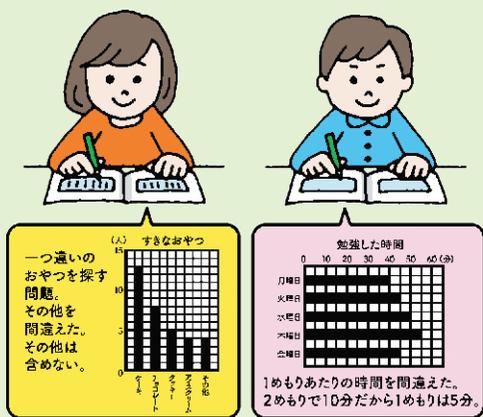
1 単元テストを返却し、正解、不正解を児童自身が確認できるよう促します。次にその単元の範囲の「ドリルパーク」に取り組み、演習します。解説を読んでもわからないところがある場合は友だち・先生に質問するなど、解決方法を考えます。



繰り返し演習

2 「ドリルパーク」が解けた児童から単元テストに戻り、どうして間違えたのか考えます。「ドリルパーク」での演習で気づいたことをノートに書き出します。

間違えた理由を言語化



3 ノートを先生に提出します。正しく理由づけができていないかチェック。個別に声かけが必要な児童がないか確認します。

特に算数や理科のテストでの実践がオススメです!

ドリルパークよくある Q&A

Q. 子どもは自分のドリルの実施内容を確認できますか?

A. 画面右上の「ふりかえり」から確認することができます。なお、AIドリルに限り、「ふりかえり」の他にAIドリル一覧の画面右上にある「取り組み状況ようを確にん」から、詳細な実施内容を確認することができます。



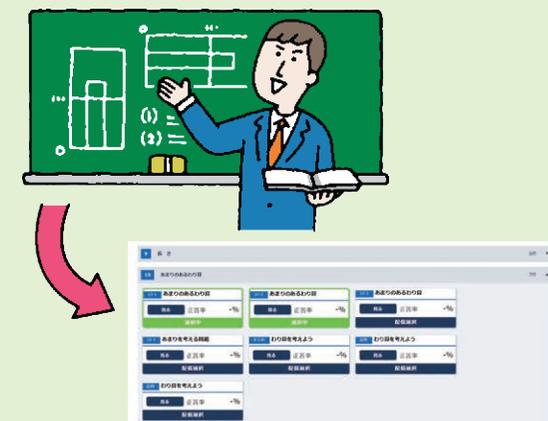
AIで個別最適&見取り強化でPOWER UPDATE!

個別最適な出題と子どもとの対話強化でつまづきを解消し学びへの意欲を引き出す

「ドリルパーク」で学習を進める利点の一つは子ども自身が自分の理解状況を把握できること。自分は何がわかっていて、わかっていないのかを自覚しながら学習を進めることができます。教員と子ども間で理解度に関する対話も生まれ、学習の仕方を自ら工夫する動きにもつながっています。

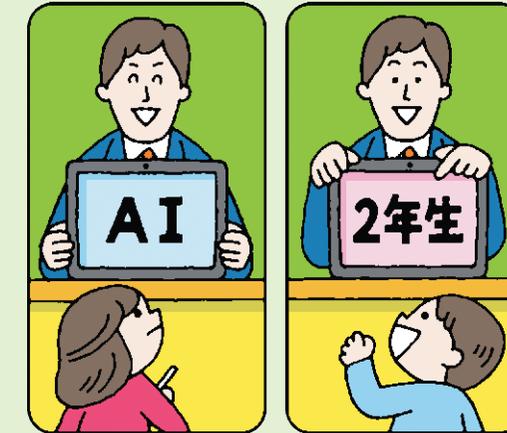
1 その日の授業で習った範囲を「ドリルパーク」で選択し宿題として出す。単元がすべて完了しなくてもモジュール単位で課題配信ができるため、小さい単位で理解確認が可能。配信時に問題内容をチェックできることで、スムーズに選択ができる。

授業で習った範囲を課題配信



2 単元が終了した際には、単元復習として「ドリルパーク」に取り組む。算数は習熟度別コースで授業を実施しているため、苦手な子が多いコースでは個別最適化された問題を配信、得意な子のコースでは全員共通の問題を配信するなど、子どもの理解度や状況に合わせて取り組む内容を変える。児童は授業のスキマ時間や、教科書や紙ドリルが終わったあとに演習を進める。

習熟度に合わせて取り組む問題を変える



3 教員は子どもの理解状況を学習履歴で確認。つまづきが見られる児童には前学年や前単元の内容を解くことなども含めて声かけを行う。

デジタル教材を用いながら、見通しをもった学習や工夫ができるよう「学び方」を身につけてほしいと思っています。

ドリルパークよくある Q&A

Q. 課題配信する方法を教えてください!

A. 以下の3ステップで配信設定は完了です。
 ①「配信先を選ぶ」で「クラス単位」「子ども単位」のどちらかを選択します。
 ②「配信種類を選ぶ」で「全員一律で同じ問題を配信」「一人ひとりに個別最適な問題を配信」のどちらかを選択します。
 ③「問題を選択する」をタップし、配信する問題を選択します。

※詳しくは「ミライシード ファンサイト」の「ドリルパーク」利用マニュアルをご確認ください。



初めての方向け

小学生

全教科

初めての方向け

小学生

全教科



取り組みの確認でPOWER UPDATE!

課題履歴を生徒一人ひとりの見取りへ繋げる 主体的な学習態度を育てるドリル活用

「ドリルパーク」の学習履歴を活用し、生徒の頑張りや理解度を指導や授業内容に反映させています。

- 1 学習履歴で注目する項目とその項目を確認することで、何を把握に繋げるかをいくつか決めて確認していく。
- いつ提出したか⇒学習態度の把握(提出直前にパパッと済ませたのか、計画性をもって取り組んでいるかを見取り)
 - 何時に取り組んでいるか⇒学習サイクルの把握
 - 問題ごとの正答率⇒つまづいている問題の傾向、理解できている範囲の把握



- 2 次の定期テストに向けた準備になるように「ドリルパーク」で課題配信を行う。
- 次の定期テストの範囲をまとめたセットにし配信
 - 取り組み締め切り日は定期テスト当日に設定
 - 中間テストの翌日には期末テストの範囲を配信



教員はたびたび履歴を確認し、正答率、取り組み時間、いつ解いたかなど、生徒の取り組み結果を見て声をかけます。「順調に進んでいるね」「もう少しペースを上げるとよさそうだよ」「遅くまで頑張っているね。無理をしないようにね」生徒は個別の声かけや授業内での指導を受けて学習方法を見直していきます。

正答率が低い問題を見て、説明の仕方を変えてみたり、次の授業で詳しく振り返りをしたり、指導改善にも役立てていけそうです。

ドリルパークよくある Q&A

- Q. 課題の取組結果はどうやって確認できますか?
- A. 先生用メニューの「課題履歴確認」から確認できます。「課題履歴確認」をタップすると配信した課題が一覧で表示されます。「取組結果確認」から、課題ドリルの実施状況を確認することができます。



様々な問題を小分けに出題でPOWER UPDATE!

課題配信のフル活用で「解けるから楽しい」を生み出し 学習サイクルの確立につながる

生徒たちに「わかった!」という達成感と「解けるから楽しい」という勉強の本質を体験してもらうために、「ドリルパーク」の課題配信を様々なシーンで活用。取り組んだ分だけ成績に反映される生徒が増えています。

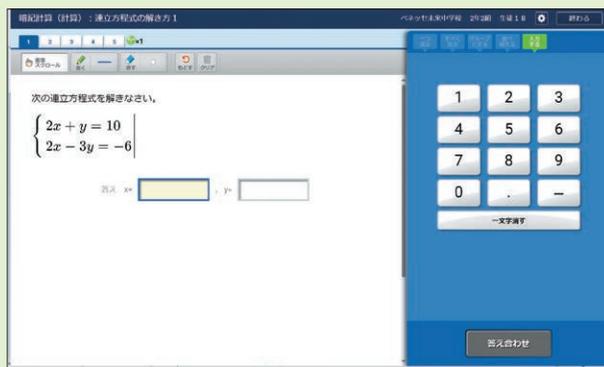
- 1 休み明けテストと連動させる
- 「ドリルパーク」の取り組みを後押しするのに最も効果的なのはドリルパークで取り組んだ問題をテスト範囲に含めること。連休前、中間テスト前、期末テスト前の家庭学習で、「ドリルパーク」上で課題配信を行い、テスト範囲を事前にアナウンスした上で出題。



- 2 授業と連動しやり切れるだけ小分けに出題する
- 数学の場合、普段の授業は基本的にノートやプリントで行い、最後の5分~10分間でその日に学習した内容の復習となる問題を「ドリルパーク」で配信。定期テストや復習テストの範囲の復習用に30分程度で取り組めるよう小分けにして宿題として配信する。



- 3 さまざまな形式・レベルの問題だから
苦手単元の復習など自主的な取り組みも配信しなくても、家庭学習で数学の内容で苦手な単元の復習をしている生徒が増えたり、他の教科にも取り組んだりしている生徒が増えてきている。



当初は「指示」で始めたことでも、小さな単位での課題配信を繰り返して解き「できた!」の体験を重ねるうちに、一人ひとりの自信と習慣へと昇華していったと感じています。

ドリルパークよくある Q&A

- Q. 短時間利用にオススメの問題はありますか?
- A. 「暗記・計算対策問題」を多数搭載しています。朝学習やスキマ時間での繰り返し演習に最適です。



初めての方向け

中学生

数学

プラスα活用

中学生

数学

業務効率化 と 子どもの学び

の個別最適を両立できる！

デジタル確認テスト

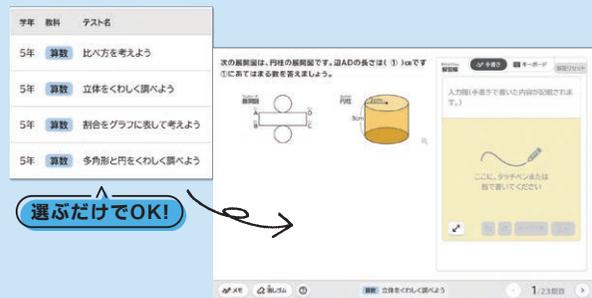
「テストパーク」

テストの作成・採点時間を大幅カットしテスト後の見取りが

スムーズに。先生方の「働き方改革」と子どもたちの「学力向上」を支援します。



① 単元を選んでかんたん配信！
教科書に合わせた
テスト搭載！



主要教科書に対応した問題を搭載しているため、単元を選ぶだけで適切に実力確認できるテストを実施できます。

② 自動採点や
採点補助機能も充実。
業務負担軽減に！



設問ごとの採点画面で採点ゆれを防止しながら丸つけが可能。ショートカットキーや一括採点など効率的に採点できる機能も充実。

③ 返却もスピーディーに。
間違えた記憶が
新しいうちに振り返りを実現！



テスト後、短期間で採点完了。間違えた記憶が新しいうちに原因を確認できます。また解説もその場ですぐ見られるから振り返り、再定着までスムーズです。

「テストパーク」は現在、一部の学校様にモニターとしてご利用いただいております。2025年度より、小4～6・4教科(国・算・理・社)、中2・3教科(英・理・社)に順次対応しご利用いただけるようになります。モニターのご希望や詳しい時期などは窓口までお問い合わせください。

お問い合わせ先はこちら



福岡県
福岡市立南片江小学校
西木 貴大先生

採点時間を削減し返却もスピーディーに
テスト当日の振り返りで単元理解の引き上げに！

1単元約30分かかっていた採点が半分以上に。即日に採点・返却までできるため間違えた問題も即日に復習が可能です。「ドリルパーク」との組み合わせで、単元理解の引き上げに役立ちます。



単元まとめテストとして
「テストパーク」を活用

「テストパーク」では途中式も確認ができ、部分点も付与できるので、途中式も書くように子どもに指示する。



テストが早く終わった子は
「ドリルパーク」の応用問題に挑戦。

テスト範囲の応用問題をドリルパークで問題配信しておき、子どもを手持ち無沙汰にさせずに、レベルアップさせていくことができる。



採点結果は即返却。
テストで間違えたところを
即日自宅で復習。

テストで間違えた問題は「ドリルパーク」か紙のドリルか子どもが好きな方を選択し、学校や自宅で復習をおこなう。

※「Aドリル」とは、学習者の習熟度に応じてドリルパークの問題が出し分けられたり、復習や課題配信機能で個別最適化された問題が出題される機能を指します。

テストパークの活用事例は「ミライシード ファンサイト」でもご紹介中です。>>>

